

2026年度 文学部聴講生
講義要項
(ドイツ語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2026.4 - 2027.3

科目名: ドイツ文学史(1)**担当教員: 羽根 礼華**

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー: LE-LT1-C103

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AA1541

更新日時: 2026-01-09 15:28:4

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

中世から現代までのドイツ語で書かれた文学の歴史を学びます。文学を取り巻く政治・社会・文化の状況にも目を配りつつ、それぞれの時代の文学の潮流と主要な作家・作品について解説します。文学作品の抜粋を講読し、作品に関連する音楽や映画なども随時取り上げます。

科目目的

この科目は、中世から現代にいたるまでのドイツ文学史の基礎知識を習得することを目的としています。

到達目標

- ・ドイツ文学史の展開についての基礎的な知識を身につけること。
- ・ドイツ語文学の主要な作家と作品についての知識を習得すること。
- ・ドイツ語文学に関連する音楽や映画などについての知識を広げること。

授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 中世の叙事詩: 『トリスタン』『ニーベルンゲンの歌』
- 第3回: 中世の抒情詩: ミンネザング
- 第4回: 近世の文学①: 人文主義、活版印刷術、ルターによる聖書のドイツ語訳
- 第5回: 近世の文学②: マイスターザング、宗教劇、謝肉祭劇
- 第6回: 感傷主義、シュトゥルム・ウント・ドラング
- 第7回: 18世紀の市民劇
- 第8回: ゲーテとシラー、ドイツ・ジャコバン派
- 第9回: ロマン主義
- 第10回: 三月前期の文学、リアリズム
- 第11回: 自然主義、「世紀末」の文学
- 第12回: 表現主義、ダダイズム、「新しい女」
- 第13回: ナチ時代の文学、1945年以降の文学
- 第14回: 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書の指定範囲や配布資料を良く読んだ上で、授業に臨んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 50% 授業で扱ったドイツ文学史についての基礎知識を理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価します。

レポート	0%
平常点	50% 授業中の活動への取り組みとリアクションペーパーの記述内容を基準とします。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業中にリアクションペーパーの内容を紹介し、コメントや質問に回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】

柴田翔(編著)(2003)『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房 *各自入手してください。

*上記以外の文献は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

原則として、正当な理由なく4回以上欠席した場合には、F評価とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

参考URL

備考

この科目は教職(ドイツ語)の必修科目です。

科目名：ドイツ文学史(2)**担当教員：羽根 礼華**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：月3

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：LE-LT1-C104

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:3

更新者：AA1541

更新日時：2026-01-09 15:28:5

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

「ドイツ文学史(1)」で扱った中世から現代までのドイツ文学史の概要を踏まえつつ、ドイツ語文学作品を講読します。小説・詩・戯曲の各ジャンルからそれぞれ数編を取り上げ、文学テキスト分析の方法についても併せて学びます。授業で読むのは主に近現代の作品ですが、中世から近世までの文学・文化も、近現代における受容という観点から適宜扱います。

科目目的

この科目は、作品の読解を通じてドイツ文学史の知識を深めると共に、文学テキスト分析の基礎的な方法を身につけることを目的としています。

到達目標

- ・ドイツ文学史の展開についての知識を深めること。
- ・ドイツ語文学の主要な作家と作品についての知識を深めること。
- ・文学テキスト分析の基礎的な方法を習得すること。

授業計画と内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：ヨーハン・ヴォルフガング・ゲーテ『若きヴェルターの悩み』／テキストとパラテキスト、小説の冒頭と結末
- 第3回：トーマス・マン『ヴェネツィアに死す』／語り手、焦点化と焦点人物
- 第4回：イルゼ・アイヒンガー「鏡物語」／プロットとストーリー、時間
- 第5回：小括(小説)
- 第6回：ヨーハン・ヴォルフガング・ゲーテ「トゥーレの王さま」(『ファウスト』より)／詩脚、詩行、詩節
- 第7回：ハインリヒ・ハイネ「ローレライ」(『歌の本』より)／韻、終止形
- 第8回：パウル・ツェラン「死のフーガ」／修辭的文彩
- 第9回：小括(詩)
- 第10回：ゴットホルト・エフライム・レッシング『賢人ナータン』／場所、時間、筋
- 第11回：ハインリヒ・フォン・クライスト『ペンテジレアー』／戯曲の言語、戯曲のジャンル
- 第12回：ハイナー・ミュラー『ハムレットマシーン』／間テキスト性
- 第13回：小括(戯曲)
- 第14回：総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書の指定範囲や配布資料を良く読んだ上で、授業に臨んでください。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	授業で扱ったドイツ文学と文学テキスト分析の方法についての基礎知識を理解し、ドイツ文学作品を論じることができるかどうかを評価します。
レポート	0%	
平常点	50%	授業中の活動への取り組みとリアクションペーパーの記述内容を基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

授業中にリアクションペーパーの内容を紹介し、コメントや質問に回答します。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manaba

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

【テキスト】
柴田翔(編著)(2003)『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房 *各自入手してください。
*上記以外の文献は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー

その他特記事項

原則として、正当な理由なく4回以上欠席した場合には、F評価とします。遅刻3回で欠席1回とみなします。

参考URL

備考

この科目は教職(ドイツ語)の必修科目です。

科目名: ドイツ語学 I (1)(3):講義**担当教員: 成田 節**

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 水1

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C201,LE-LG2-C2

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AB4349

更新日時: 2026-01-09 08:16:4

授業形式

すべての授業回について対面授業を行います。

履修条件・関連科目等

ドイツ語の初級文法を一通り学習していることを履修の条件とする。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

言葉はコミュニケーションの手段であるとともに、歴史的・文化的遺産とも見なされる。この講義では、ドイツ語の根本的な仕組みを学習しながら、実用と教養のバランスの取れた見識を養う。

科目目的

- ・ドイツ語の具体的な文法事象(そこには日本語にも英語にも見られないものがある)を歴史や文化との関連で体系的に把握する
- ・そうした体系性がいかにコミュニケーションに作用しているかを理解し、この認識を語学力の上達や異文化理解に生かす姿勢を身につける

到達目標

- ・CEFR B1 程度のドイツ語読解力を身につけている
- ・このレベルの読解力を支える文法事項について十分な説明が行える

授業計画と内容

1. 世界の中のドイツ語, ドイツ語の歴史, ドイツ語の変種
2. 音韻 (1): 母音, 子音, 音と綴り, 音節
3. 音韻 (2): アクセント, イントネーション
4. 文法 (1): 品詞分類
5. 文法 (2): 名詞系統の語形変化
6. 文法 (3): 動詞系統の語形変化
7. 確認テスト 1 (中間まとめ)
8. 文法 (4): 文の構造, 結合価, 文成分
9. 文法 (5): 格と前置詞
10. 文法 (6): 能動, 受動, 使役
11. 文法 (7): 時制とアクツィオーンズアルト
12. 文法 (8): 語順
13. 語彙: 造語論, 外来語, 新語
14. 確認テスト 2 (総まとめ)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

毎回授業の後にコメントや疑問点を書いて提出すること。提出にはmanabaを使う。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 30% | 既習事項の要点を抑えているかどうかを確認する。 |
| 期末試験 | 30% | 授業での学習成果をもとに自らドイツ語のテキストを読解・分析し、その結果を適格な日本語で説明できるかどうかを確認 |

かめる。

レポート	0%	
平常点	40%	授業中の質問や発言、コメントシート、課題への取り組みなど。通常の努力をもって受講しているかどうかを確認する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

※欠席が開講回数の1/3を超えた者は成績評価の対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

別途指示する。

オフィスアワー

その他特記事項

- ・履習にあたり、初級ドイツ語の文法知識や読解力は必要であるが、それ以上の専門的知識は要求しない。
- ・本授業は、後期開設の「ドイツ語学I(2)(4):演習」の前提となる授業である。
- ・本授業に加えて、「ドイツ語学II(1)(3):講義」も合わせて受講することが望ましい。

参考URL

TUFS言語モジュール「ドイツ語」
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/de/>

備考

この科目は教職(ドイツ語)の必修科目です。

科目名: ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義

担当教員: 林 明子

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 水3

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C203,LE-LG2-C2

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AA0530

更新日時: 2026-01-11 11:51:2

授業形式

履修条件・関連科目等

- (1) 本授業は、後期開設の「ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習」の前提となる授業である。
- (2) 本授業に加えて「ドイツ語学Ⅰ(1)(3):講義」も合わせて受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

本科目では、特に、広義の応用言語学(語用論・社会言語学・文章・談話の研究など)を中心に、言語研究の多様なアプローチとそこで用いられる基本的な概念・分析方法について、身近な具体例を通して学ぶ。今年度は語用論に関する事項を取り上げる。「講義」科目ではあるが、受け身で話を聞いていても理解は深まらない。実際に言語を分析してみることが重要である。そこで、授業中の活動には、分析作業や意見交換の場を積極的に取り入れる。

科目目的

言語学分野の基礎知識と多様な方法論を知ることによって、言語学はもちろん、文学・文化学・演劇学・歴史学・美術／芸術などの他分野にあっても、言語の背景にある社会や文化に客観的に迫る力を身に付ける。言語学分野を専門としようとする履修者にとっては、近い将来、自分自身で組み立てる調査、そのためのデータ収集・分析にあたって、自分の道具となってくれる専門用語や方法論を整理・発見する一助となる。

到達目標

「言語学」という学問分野で繰り広げられるアプローチの多様性を知り、基礎的な知識と「ことば」をめぐる様々な観点、研究方法を知ることが目標とする。然るべき方法論に則って、言語事実を客観的かつ正確に観察・分析するプロセスを学ぶ。それを通して言語の背景にある社会や文化に客観的に迫る力を身に付ける。

授業計画と内容

- * 履修者の関心に応じて内容を変更する場合もある。
- (1) 語用論とは何か: 隣接領域との関係
- (2) 意味論の意味と語用論の意味: deutsche Satzsemantik
- (3) 言語を用いた行為はどのように機能するか
- (4) 命題 (Proposition)
- (5) 発話行為理論 (Sprechakttheorie)
- (6) 直接発話行為と間接発話行為
- (7) コンテキストとは何か: 定義と分類
- (8) 言語的コンテキストから社会文化的コンテキストまで
- (9) コンテキスト化の合図 (Contextualization cues)
- (10) 発話の再現と再コンテキスト化
- (11) 会話分析と語用論
- (12) 実際の会話分析で用いる概念・方法論・根本的な分析の軸
- (13) 語用論とダイクシス (指示語用論)
- (14) 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	70%	当該分野の基本的な概念や方法論を十分理解し、自分自身の分析に応用できるだけの能力を身につけたかどうかを評価の対象とする。
レポート	0%	
平常点	30%	授業中の活動や授業内容を受けて出す提出課題を通して、基礎的な知識や方法論を身に付けたかどうか、分析課題にどう取り組んだかを評価する。授業後に提出する「今日の気づき・ひらめき」などを通して理解を確認するとともに、そこに記された発展的な「気づき」も重視した上で採点する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、出席率が70%に満たない者、課題未提出の者はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いて、学生の反応や「気づき」を把握し、クラスで共有しながら授業を進める。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキスト・参考文献等
<参考文献>

加藤重広、澤田淳編(2020)『はじめての語用論 ―基礎から応用まで―』研究社

窪田晴夫編著(2019)『よくわかる言語学』ミネルヴァ書房

Bergmann, R., Pauly, P., Stricker, S. (2005) Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft. Vierte Auflagen. Heidelberg: Universitätsverlag Winter.

Bergmann, R., Pauly, P., Stricker, S. (2010) Einführung in die deutsche Sprachwissenschaft. Fünfte Auflagen. Heidelberg: Universitätsverlag Winter.

<辞典／事典類>

*専門の辞典類は、専門用語を中心に予・復習の役に立つ。

亀井孝他編著(1996)『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂

小池生夫編集主幹(2003)『応用言語学事典』研究社
齋藤純男・田口義久・西村義樹編(2015)『明解言語学辞典』三省堂
ドイツ言語学辞典編集委員会編(編集主幹: 川島淳夫)(1994)『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店屋書店

*その他、参考文献は授業の中で紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

連絡方法: オフィスアワーを含め、まずはmanabaまたはメールでご連絡ください。メールアドレスは、授業開始後、履修者にお知らせします。

参考URL

備考

科目名: 現代ドイツ事情(1)／現代ドイツ事情(1)(3)

担当教員: シュミット、マリア ガブリエラ

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C501

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AC7659

更新日時: 2025-12-05 13:54:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- ✓ その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

Der Unterricht wird auf Deutsch und Japanisch, wenn notwendig auch auf Englisch oder in anderen Sprachen durchgeführt. 授業はドイツ語で日本語で行います。必要と気に英語と他の原本を読めるときにその本言語の文章を見えます。

授業の概要

Der Unterricht widmet sich den gegenwaerigen Themen des deutschsprachigen Raums (Deutschland, Schweiz, Oesterreich, Suedtirol, Luxemburg, Lichtenstein, Belgien) sowie Europa und der EU. Dabei werden grundlegende Kenntnisse der modernen europaeischen Geschichte, die politischen Systeme, gesellschaftliche Fragen, Nachrichten, Zeitungen, Erziehung und Bildung, Gesellschaft, soziale Fragen, Kultur, etc. genau betrachtet und analysiert. Ausserdem koennen aktuelle Themen einbezogen werden. 本講義では、ドイツ語圏とヨーロッパの現代社会・政治・文化・などのテーマをめぐっている。ドイツ語圏のの基礎の歴史、政治のシステム、ニュース、新聞、教育、社会、社会問題などを詳しく見ている。その以外は新鮮なニュースを読んで分析すること。

科目目的

Das Ziel des Unterrichts ist es, aktuelle Entwicklungen und Ereignisse des deutschsprachigen Raums und Europa kritisch zu analysieren und zu hinterfragen. この授業の目的はドイツ語圏とヨーロッパの行った現代事情のイベント情報を分析すること、理解できること。 This class targets the actual and recent affairs of German speaking countries and Europe, analyse it and compare it with Japan and Asia, to be able to express an informed opinion.

到達目標

Aktuelle gesellschaftliche, politische, soziale und kulturelle Entwicklungen des deutschsprachigen Raumes zu verstehen und einzuordnen, um sich eine informierte Meinung bilden zu koennen. ドイツ語圏における現在の社会的、政治的、社会的、文化的な動向を理解し、分類して、情報に基づいた意見を形成できるようにする。

授業計画と内容

Unterrichtsplan (Entwurf):

- 第1回:オリエンテーション Einführung
 - 第2回:ドイツ語圏の国:言語、文化、政治、社会 German speaking countries
 - 第3回:ヨーロッパの国:言語、文化、政治、社会 European countries
 - 第4回:ドイツ語圏とヨーロッパの現代歴史 German speaking countries and European history
 - 第5回:発表1:ドイツ語圏の国の基礎 Presentation
 - 第6回:戦争の影響:ユダヤ人・シンティ・ロマ・難民・移動 Minority
 - 第7回:移民:ドイツ語圏とヨーロッパ
 - 第8回:鉄のカーテン:西・東と西・東ドイツ
 - 第9回:Gastarbeiterとヨーロッパ
 - 第10回:発表2:ドイツ・ドイツ語圏と歴史
 - 第11回:ドイツの事情
 - 第12回:スイスの事情
 - 第13回:オーストリアの事情
 - 第14回:感想課題:ドイツ語圏の事情:とまとめ
- この予定より変わる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

Vorbereitung der Themen durch aufmerksames Zeitung(en) und Zeitschrift(en) lesen, Nachrichten sehen (Fernsehen, Internet, soziale Netzwerke), sich informieren ueber aktuelle Themen. 授業の内容に関する参考文献を示すため、自身が特に興味関心を持った内容については積極的に参考文献を閲覧し、知識と考察を深めること。小発表を準備して、授業中アクティブなディスカッションを行う。
Reading-seeing-listening news, newspapers, magazines etc. to get informed about actual developments.

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	学期末に、授業内容に関するレポートの提出を求める。 ①授業内容を十分に理解しているか、②授業からどの程度自分自身の考察を引き出すことができたか、③主体的・積極的に学びを深めたかどうか、この三点からレポート内容を評価する。
平常点	20%	毎回のリアクションペーパーの内容を評価し、平常点として加算する。
その他	20%	毎回授業の日記、感想

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、14回の授業のうち、10回以上出席することを、成績評価の前提条件として求める。
欠席にすれば当日や先に連絡すること。理由を必ず伝える。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Will give detailed feedback on request, leaning advising on request.

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容
Dieser Unterricht ist handlungsorientiert ausgerichtet.
This class will use various forms of interaction and active learning as group work, discussion, presentations, shared documents.

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

ICT tools will be introduced depending on the theme.

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

Book keeping, Accounting 1980 - 1998
Technical employee 1979-1980
Intercultural training since 2012
Language learning advising since 2025

実務経験に関連する授業内容

Intercultural training
Learning advisor, mentor

テキスト・参考文献等

Es gibt kein spezielles Lehrbuch. Die Materialien werden je nach Thema und Sprachniveau gewaehlt. Unterrichtsmaterialien werden vorbereitet. Insbesondere werden Open Educational Resources (OER, open access) eingesetzt, um das Urheberrecht zu schuetzen.

その他:Text, Video, Audio, DVD, Internet, Bilder, Musik etc.

There is no specific textbook as we select the materials from a multimedia pool, esp. Open Educational Resources (OER, open access) are recommended for not violating the copyright laws.

オフィスアワー

その他特記事項

The concept of this class is action-oriented, contents-oriented, and task-based language teaching and learning with actual information. It has linguistic elements but it is basically contents-oriented in order to develop an informed opinion.

参考URL

備考

科目名: 現代ドイツ事情(2)／現代ドイツ事情(2)(4)

担当教員: シュミット、マリア ガブリエラ

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月3

配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C502

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AC7659

更新日時: 2025-12-05 13:47:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- ✓ 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- ✓ その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

Der Unterricht wird auf Deutsch und Japanisch, wenn notwendig auch auf Englisch oder in anderen Sprachen durchgeführt.

授業はドイツ語や日本語で行います。必要と時に英語と他の原文を読めるときにその本言語の文章を見えます。

This class will be mainly conducted in German and Japanese. If needed information will be provided in English or other languages.

授業の概要

Der Unterricht widmet sich den gegenwaerigen Themen des deutschsprachigen Raums (Deutschland, Schweiz, Oesterreich, Suedtirol, Luxemburg, Lichtenstein, Belgien) sowie Europa und der ERU. Dabei werden grundlegende Kenntnisse der modernen europaeischen Geschichte, die politischen Systeme, gesellschaftliche Fragen, Nachrichten, Zeitungen, Erziehung und Bildung, Gesellschaft, soziale Fragen, Kultur, etc. genau betrachtet und analysiert. Ausserdem koennen aktuelle Themen einbezogen werden.

本講義では、ドイツ語圏とヨーロッパの現代社会・政治・文化・などのテーマをめぐっている。ドイツ語圏の基礎の歴史、政治のシステム、ニュース、新聞、教育、社会、社会問題などを詳しく見ている。その以外は新鮮なニュースを読んで分析すること。

科目目的

Das Ziel des Unterrichts ist es, aktuelle Entwicklungen und Ereignisse des deutschsprachigen Raums und Europa kritisch zu analysieren und zu hinterfragen.

この授業の目的はドイツ語圏とヨーロッパの行った現代事情のイベント情報を分析すること、理解できること。

This class targets the actual and recent affairs of German speaking countries and Europe, analyse it and compare it with Japan and Asia, to be able to express an informed opinion.

到達目標

Aktuelle gesellschaftliche, politische, soziale und kulturelle Entwicklungen des deutschsprachigen Raumes zu verstehen und einzuordnen, um sich eine informierte Meinung bilden zu koennen. ドイツ語圏における現在の社会的、政治的、社会的、文化的な動向を理解し、分類して、情報に基づいた意見を形成できるようにする。

授業計画と内容

Unterrichtsplan (Entwurf):

- 第1回:オリエンテーション Einfuehrung
 - 第2回:ドイツ語圏の政治 Politik und Parteienlandschaft
 - 第3回:ドイツとドイツ語圏の教育・外国語教育について Fremdsprachen
 - 第4回:ドイツ語圏とヨーロッパの軍事 Wehrmacht
 - 第5回:ドイツ語圏の社会 Gesellschaft
 - 第6回:発表1
 - 第7回:ドイツ語圏の経済と職場 Wirtschaft und Arbeitsplatz
 - 第8回:ドイツ語圏の地理・交通・天気 Geographie, Verkehr und Wetter
 - 第9回:ドイツの運命の日 deutscher Schicksalstag
 - 第10回:ドイツ語圏の教育と職業 Erziehung und Beruf
 - 第11回:発表1
 - 第12回:EUとヨーロッパの課題 EU und Europa
 - 第13回:平和と戦争 Frieden und Krieg
 - 第14回:発表3とまとめディスカッション
- この予定より変わる可能性があります。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

Vorbereitung der Themen durch aufmerksames Zeitung(en) und Zeitschrift(en) lesen, Nachrichten sehen (Fernsehen, Internet, soziale Netzwerke), sich informieren ueber aktuelle Themen. 授業の内容に関する参考文献を示すため、自身が特に興味関心を持った内容については積極的に参考文献を閲覧し、知識と考察を深めること。小発表を準備して、授業中アクティブなディスカッションを行う。
Reading-seeing-listening news, newspapers, magazines etc. to get informed about actual developments.

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	学期末に、授業内容に関するレポートの提出を求める。 ①授業内容を十分に理解しているか、②授業内容からどの程度自分自身の考察を引き出すことができたか、③積極的・主体的に学びを深めているか、この三点からレポートを評価する。
平常点	20%	毎回のリアクションペーパーの内容を評価し、平常点として加算する。
その他	20%	毎回授業の日記と感想

成績評価の方法・基準(備考)

原則として、14回の授業のうち、10回以上出席することを、成績評価の前提条件として求める。
欠席にすれば当日や先に連絡すること。理由を必ず伝える。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- ✓ その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

Will give detailed feedback on request, leaning advising on request/appointment

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
- ✓ その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容. Dieser Unterricht ist handlungsorientiert ausgerichtet.
This class will use various forms of interaction and active learning as group work, discussion, presentations, shared documents.

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

The use of ICT may depend on the contents of the class. ICT tools will be introduced depending on the theme.

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

Book keeping, Accounting 1980 ~ 1998
Technical employee 1979 - 1980
Intercultural training since 2012
Language learning advising since 2025

実務経験に関連する授業内容

Intercultural training
Language learning advising

テキスト・参考文献等

Es gibt kein spezielles Lehrbuch. Die Materialien werden je nach Thema und Sprachniveau gewaehlt. Unterrichtsmaterialien werden vorbereitet. Insbesondere werden Open Educational Resources (OER, open access) eingesetzt, um das Urheberrecht zu schuetzen.
その他: Text, Video, Audio, DVD, Internet, Bilder, Musik etc.
There is no specific textbook as we select the materials from a multimedia pool, esp. Open Educational Resources (OER, open access) are recommended for not violating the copyright laws.

オフィスアワー

その他特記事項

The concept of this class is action-oriented, contents-oriented, and task-based language teaching and learning with actual information. It has linguistic elements but it is basically contents-oriented in order to develop an informed opinion.

参考URL

備考

科目名: ドイツ社会誌(1)(3)

担当教員: 磯部 裕幸

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 金3

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C503,LE-DT1-C5

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AA2034

更新日時: 2026-01-08 19:06:2

授業形式

すべての授業回について面接(対面)授業を実施する。

履修条件・関連科目等

授業で取り扱う内容が関連しているため、履修者には後期科目「ドイツ社会誌(2)(4)」の受講も強く求める。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

授業概要: テーマ「神なく預言者なき時代」の処方箋? ポイカト『ウェーバー 近代への診断』を読む(前半)
 本授業は、ドイツの近現代史研究、とりわけ近代「合理性」とホロコーストとの関係を考究し続けたデートレフ・ポイカト(Detlev Peukert, 1950-90)によるマックス・ウェーバー(Max Weber, 1864-1920)論の前半部を取り上げ、これに註釈を施しながら、ポイカトがウェーバーのテキストから何を読み取り、また自らの歴史研究に活かしていったのかということについて考えることとしたい。授業の性格上、履修者が下に指定するテキスト(毎回の授業の該当箇所)を予め読んでおくことが前提となる。また取り上げる書籍の後半部については、後期科目「ドイツ社会誌(2)(4)」で扱うので、履修者には年間を通じて受講することが強く要請される。よく知られている通り、ウェーバー自身はナチズムの台頭を見ることなくこの世を去ったため、彼自身がヒトラーと直接対峙することはなかった。しかしウェーバーが残した膨大なテキストには、その後の全体主義的体制やホロコーストの問題を考える上で、示唆に富む部分が多数存在する。ポイカトはウェーバーのテキストに取り組み、これと格闘することで、本来人々に幸福をもたらさずだった近代合理主義が、残酷な「絶滅政策」へとつながるパラドクスを明快に描いてみせた。この授業では、そうした近代科学や合理主義の問題を取り上げながら、我々の生きる21世紀の世界に「ホロコースト的なもの」の残滓がないのかを考えていきたい。

科目目的

本科目は、ポイカトによる「マックス・ウェーバー論」を読みながら、「近代」の意味を問うことを目的とする。人文・社会科学の研究において、書かれたテキストを正確に理解し、自ら新たな問いを発するという事は、どのような分野であれ重要である。従って本科目の履修は、将来卒業論文や卒業研究を執筆するにあたって有益な視座を与えてくれるに違いない。

到達目標

本科目では、主に歴史学研究の手法や方法論を学び、人間社会に対する深い理解と広範な知識の修得を目指す。そして自ら問いを立て、他者との議論を通じて新たな知を創造することを最終的な到達目標とする。

授業計画と内容

- 第1回 導入: マックス・ウェーバーとデートレフ・ポイカトについて
- 第2回 I. 序論「神なく預言者なき時代に」(教科書1-14頁)
- 第3回 II. ウェーバーと「文化科学」の問題(1): 「よりましな人間たちの饗宴」(教科書15-30頁)
- 第4回 II. ウェーバーと「文化科学」の問題(2): 「価値自由」という概念をめぐって(教科書30-46頁)
- 第5回 III. 「おしまいの人間たち」(1): ウェーバーと文化批判(教科書48-64頁)
- 第6回 III. 「おしまいの人間たち」(2): 合理化のパラドクス(教科書64-81頁)
- 第7回 III. 「おしまいの人間たち」(3): ウェーバーと「世界史」(教科書82-90頁)
- 第8回 III. 「おしまいの人間たち」(4): ウェーバーとランケ(教科書90-101頁)
- 第9回 IV. 「理性の夢」(1): 「近代」の二面性(教科書104-119頁)
- 第10回 IV. 「理性の夢」(2): 社会の「合理化」と宗教(教科書120-133頁)
- 第11回 IV. 「理性の夢」(3): 近代の「合理化」という問題(教科書134-142頁)
- 第12回 IV. 「理性の夢」(4): 「黄金の20年代」と社会の「合理化」(教科書142-154頁)
- 第13回 IV. 「理性の夢」(5): 「合理化」の危機(教科書154-164頁)
- 第14回 IV. 「理性の夢」(6): 「合理化」と「規律化」(教科書154-164頁)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	出席は取らない。学期末に提出する課題(レポート。分量は4000-6000字程度)のみで成績を評価する。学期末課題の詳細(体裁・提出期限・提出方法など)については、追って連絡する。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

◎教科書(各自購入の上、毎回必ず予習すること！)
デートレフ・ポイカート(雀部幸隆/小野清美(訳))『ウェーバー 近代への診断』(名古屋大学出版会・1994年)(ISBN-13:978-4815802424)

●参考文献(購入は必ずしも必須ではない)
ジグムント・バウマン(著)(森田典正訳)『近代とホロコースト』(ちくま学芸文庫・2021年)

デートレフ・ポイカート(著)(小野清美/田村栄子/原田一美訳)『ワイマール共和国—古典的近代の危機』(名古屋大学出版会・1993年)

ベンノ・ミュラー＝ヒル(南光進一郎監訳)『ホロコーストの科学—ナチの精神科医たち』

(岩波書店・1993年)

ズザンネ・ハイム(川喜田敦子訳)「ナチ体制下のホロコーストと科学」(『ヨーロッパ研究』(東京大学)4(2005年)・105-114頁)

オフィスパワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: ドイツ社会誌(2)(4)

担当教員: 磯部 裕幸

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 金3

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C504,LE-DT1-C5

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AA2034

更新日時: 2026-01-08 19:13:5

授業形式

すべての授業回について面接(対面)授業を実施する。

履修条件・関連科目等

授業内容が関連しているので、本授業の受講者には前期「ドイツ社会誌(1)(3)」の履修を強く求める。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

授業概要: テーマ: 「神なく預言者なき時代」の処方箋? ポイカート『ウェーバー 近代への診断』を読む(後半)
 本授業は、前期に引き続きドイツの近現代史研究、とりわけ近代「合理性」とホロコーストとの関係を考究し続けたデートレフ・ポイカート(Detlev Peukert, 1950-90)によるマックス・ウェーバー(Max Weber, 1864-1920)論を取り上げ、これに註釈を施しながら、ポイカートがウェーバーのテキストから何を読み取り、また自らの歴史研究に活かしていったのかということについて考えることとしたい。今学期は、前期で扱った書籍の後半部について論じる。授業の性格上、履修者が下に指定するテキスト(毎回の授業の該当箇所)を予め読んでおくことが前提となる。この書籍の前半部については、前期科目「ドイツ社会誌(1)(3)」で扱っているため、履修者には年間を通じて受講することが強く求められる。

よく知られている通り、ウェーバー自身はナチズムの台頭を見ることなくこの世を去ったため、彼自身がヒトラーと直接対峙することはなかった。しかしウェーバーが残した膨大なテキストには、その後の全体主義的体制やホロコーストの問題を考える上で、示唆に富む部分が多数存在する。ポイカートはウェーバーのテキストに取り組み、これと格闘することで、本来人々に幸福をもたらさずだった近代合理主義が、残酷な「絶滅政策」へとつながるパラドクスを明快に描いてみせた。

この授業では、そうした近代科学や合理主義の問題を取り上げながら、我々の生きる21世紀の世界に「ホロコースト的なもの」の残滓がないのかを考えていきたい。

科目目的

本科目は、ポイカートによる「マックス・ウェーバー論」を読みながら、「近代」の意味を問うことを目的とする。人文・社会科学の研究において、書かれたテキストを正確に理解し、自ら新たな問いを発するという行為は、どのような分野であれ重要である。従って本科目の履修は、将来卒業論文や卒業研究を執筆するにあたって有益な視座を与えてくれるに違いない。

到達目標

本科目では、主にドイツ近現代史を学ぶことによって、人間社会に対する深い理解と広範な知識の修得を目指す。そして自ら問いを立て、他者との議論を通じて新たな知を創造することを最終的な到達目標とする。

授業計画と内容

授業予定(変更の可能性あり)

- 第1回 導入(1):ワイマール共和国と「国民の福祉」
- 第2回 導入(2):ワイマール共和国と「生きるに値しない生命」という問題
- 第3回 導入(3):ヒトラーと「民族共同体」の問題
- 第4回 導入(4):ナチ・ドイツと「ホロコースト」の歴史
- 第5回 導入(5):「アウシュヴィッツ」における「野蛮」と「近代(性)」
- 第6回 V. 生にとっての学問の「利益と不利益」(1):ウェーバー対ブレッツ(教科書176-186頁)
- 第7回 V. 生にとっての学問の「利益と不利益」(2):ウェーバーと「人種問題」(教科書186-195頁)
- 第8回 V. 生にとっての学問の「利益と不利益」(3):「科学精神」による「絶滅」(教科書196-206頁)
- 第9回 V. 生にとっての学問の「利益と不利益」(4):「民族体の若さ」についての問題(教科書206-214頁)
- 第10回 V. 生にとっての学問の「利益と不利益」(5):「大衆の福祉増進」から「大量絶滅」へ(教科書215-232頁)
- 第11回 訳者解説「運命としてのモデルネ」(その1):ポイカートとウェーバー(教科書257-266頁)
- 第12回 訳者解説「運命としてのモデルネ」(その2):ポイカートと「近代」(教科書266-275頁)
- 第13回 訳者解説「運命としてのモデルネ」(その1):「科学」と「死」の問題(教科書257-266頁)
- 第14回 総括:徹底化された「合理性の檻」としての「ホロコースト」

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出

その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	出席は取らない。学期末課題(レポート。分量は4000-6000字程度)の成績で評価する。学期末課題の詳細(体裁・提出期限・提出方法)については、追って連絡する。
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
 - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

◎教科書(各自購入の上、毎回必ず予習すること！)
デートレフ・ポイカート(雀部幸隆/小野清美(訳))『ウェーバー 近代への診断』(名古屋大学出版会・1994年)(ISBN-13:978-4815802424)

●参考文献(必ずしも購入の必要はない)
ジグムント・バウマン(著)(森田典正訳)『近代とホロコースト』(ちくま学芸文庫・2021年)

デートレフ・ポイカト(著)(小野清美／田村栄子／原田一美訳)『ワイマール共和国—古典的近代の危機』(名古屋大学出版会・1993年)

ベンノ・ミュラー＝ヒル(南光進一郎監訳)『ホロコーストの科学—ナチの精神科医たち』
(岩波書店・1993年)

ズザンネ・ハイム(川喜田敦子訳)「ナチ体制下のホロコーストと科学」(『ヨーロッパ研究』(東京大学)4(2005年)・105-114頁)

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名：ドイツ文学講義(1)(3)**担当教員：田中 一嘉**

履修年度：2026 学期：前期

開講曜日時限：月5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-LT1-C507,LE-LT1-C50

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:3

更新者：AC9346

更新日時：2026-01-05 03:16:2

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、ドイツ語圏の中世文学を題材として、神話伝承および英雄伝説の特質について考えます。本講義では、ゲルマン民族固有の伝承に由来する物語だけでなく、例えばアーサー王伝説のようなケルト民族由来のものなど多彩な作品を扱います。個々の文学作品の解釈を通じて、中世の社会・文化が作品世界にどのように反映されているのかを分析していきます。適宜、映像資料も用いる予定です。

科目目的

この科目は、文学、文化、時代精神などについての「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

- ・個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
- ・個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：西洋中世史概観
- 第3回：古ゲルマンの伝承・北欧文学
- 第4回：『古エッダ』とゲルマン神話
- 第5回：『ヴォルズンガ・サガ』ジークフリート伝説
- 第6回：『ニーベルンゲンの歌』(1) 孤高の英雄ジークフリート
- 第7回：『ニーベルンゲンの歌』(2) ブルグント族とフン族とディートリヒ・フォン・ベルン
- 第8回：『ローランの歌』(1) カール大帝
- 第9回：『ローランの歌』(2) 12臣将
- 第10回：ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴェイン』(1) アーサー王伝説
- 第11回：ハルトマン・フォン・アウエ『イーヴェイン』(2) 獅子を連れた騎士
- 第12回：ヴォルフラム・フォン・エッシェンバハ『バルチヴァール』(1)
- 第13回：ヴォルフラム・フォン・エッシェンバハ『バルチヴァール』(2) 聖杯王
- 第14回：総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

期末レポートでは、授業で扱った作品あるいは参考図書として紹介した作品の中からひとつを選んで、作品を通読した上でレポートにまとめてもらいますので、随時テキストを読み進めたり、関連する参考文献を読んだりして考察を深めて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	0%	
レポート	50%	期末レポート。詳細についてはガイダンス時に説明します。
平常点	50%	毎回課すコメントペーパーの内容を評価します。 授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを評価基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回レジюмеや資料のコピーを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

参考URL

備考

科目名：ドイツ文学講義(2)(4)**担当教員：田中 一嘉**

履修年度：2026 学期：後期

開講曜日時限：月5

配当年次：1～3年次配当

科目ナンバー：LE-LT1-C508,LE-LT1-C51

登録者：admin

登録日時：2025-10-02 06:53:3

更新者：AC9346

更新日時：2026-01-05 03:30:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

本講義では、ドイツ語圏の中世文学に描かれる女性像および恋愛観について考えます。歴史的素材に由来する「叙事詩」のみならず、個人的な情緒を語る「抒情詩」の作品を扱います。中世ドイツ文学では、中世フランス文学を一種の「お手本」として受容したことで数々の傑作が誕生しました。その経緯を踏まえた上で、個々の文学作品の解釈を通じて、中世の社会・文化が作品世界にどのように反映されているのかを分析していきます。適宜、映像資料も用いる予定です。

科目目的

この科目は、文学、文化、時代精神などについての「幅広い教養」を修得することを目的としています。

到達目標

- ・個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
- ・個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

授業計画と内容

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：西洋中世史概観
- 第3回：ブリュンヒルト伝説(1)ワルキューレ：『ヴォルズンガ・サガ』
- 第4回：ブリュンヒルト伝説(2)アマゾネス：『ニーベルンゲン之歌』
- 第5回：ハインリヒ・フォン・フェルデケ『エネアス物語』叙事詩における宮廷風恋愛の導入
- 第6回：ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク『トリスタン』(1)恋愛の過程
- 第7回：ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク『トリスタン』(2)媚薬の効果
- 第8回：宮廷風恋愛の本質
- 第9回：トゥルバドゥールの抒情詩
- 第10回：ミンネザング(1)憧れ
- 第11回：ミンネザング(2)倦怠
- 第12回：ミンネザング(3)理想と現実
- 第13回：『薔薇物語』恋愛の寓意的解釈
- 第14回：総括

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

前回授業の内容を復習して、授業全体の流れを確認してください。
また、期末レポートでは、授業で扱った作品あるいは参考図書として紹介した作品の中からひとつを選んで、作品を通読した上でレポートにまとめてもらいますので、随時テキストを読み進めたり、関連する参考文献を読んだりして考察を深めて下さい。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	期末レポート。詳細についてはガイダンス時に説明します。
平常点	50%	毎回課すコメントペーパーの内容を評価します。 授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを判断基準とします。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

毎回レジュメや資料のコピーを配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

参考URL

備考

科目名: ドイツ思想(1)／ドイツ思想史(1)

担当教員: 高次 裕

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1～3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C511

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AA2319

更新日時: 2026-01-19 08:59:4

授業形式

対面

履修条件・関連科目等

ドイツ語を履修している必要はありません。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

トーマス・マンを道案内役にドイツ思想およびその背景であるドイツ文化について論じます。具体的にはマンの講演「ドイツとドイツ人」および「ワーグナーの苦悩と偉大」において言及されている人物、著作、作品を中心に論じます。

科目目的

この科目は文学部ドイツ語文学文化専攻の「専攻科目群」の中の選択科目のひとつです。専門的学識を身に付け、その学識と幅広い教養を併せ持つことにより多様な社会に柔軟に対応することができる複眼的思考を鍛え、主体的に学び続けることができる主体性を養うことを目的としています。

到達目標

- ・ドイツ語圏の代表的な思想を理解し、説明することができる
- ・ドイツ語圏の思想の背景文化を理解し、説明することができる

授業計画と内容

春学期

- 第1回 導入:世界をどう見るか? 学問について-我々の学びはどこにあるのか?
- 第2回 歴史とは? ヘーゲル『歴史哲学講義』
- 第3回 トーマス・マン「ドイツとドイツ人」
- 第4回 キリスト教と旧約／新約聖書
- 第5回 ルター:宗教改革、ドイツ語訳聖書
- 第6回 バッハの受難曲(『ヨハネ受難曲』前半)
- 第7回 バッハの受難曲(『ヨハネ受難曲』後半)
- 第8回 ゲーテ『ファウスト』
- 第9回 ゲーテとベートーヴェン
- 第10回 シラーとベートーヴェン
- 第11回 カント『純粹理性批判』
- 第12回 カント 補足とそのほか
- 第13回 ヘーゲル『精神現象学』
- 第14回 ヘーゲル 補足とそのほか

秋学期

- 第1回 トーマス・マン「ワーグナーの苦悩と偉大」
- 第2回 ドイツ・ロマン派、無限への憧憬:シュレーゲルとノヴァーリス
- 第3回 ワーグナー『さまよえるオランダ人』
- 第4回 ワーグナー『タンホイザー』
- 第5回 ワーグナー『ローエングリン』
- 第6回 ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』
- 第7回 ワーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』
- 第8回 ワーグナー『ニーベルングの指輪』(『ラインの黄金』『ワルキューレ』)
- 第9回 ワーグナー『ニーベルングの指輪』(『ジークフリート』『神々の黄昏』)
- 第10回 ワーグナー『パルジファル』
- 第11回 ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』
- 第12回 ニーチェの思想
- 第13回 ハイデガー(『言葉についての対話:日本人と問う人とのあいだの』)
- 第14回 補足と振り返り

(状況を見て順番・内容を変更することがあります)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	期末に提出するレポートの内容 →作品をしっかり読んでいるか? 内容は正確か? 自分の考えをわかりやすく述べているか? 着眼点が優れているか? 説得力があるか? 体裁は適切か?
平常点	70%	毎回の授業後に提出する学習レポートの内容 →授業内容を正しく理解しているか? (ただの書き写しではなく)内容を正確にまとめているか? 自分の関心・考えをわかりやすく述べているか? 着眼点が優れているか? 考えの根拠・理由・補足を適切に述べているか?
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- 以下に該当する履修者には単位を認めない
- ・期末レポート未提出の場合
 - ・虚偽の申告、記述をした場合(生成AI任せのレポートを提出した場合を含む)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responの使用による双方向型の授業運営を部分的に取り入れる

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書

トーマス・マン『ワーグナーの苦悩と偉大』(岩波文庫) * 全員が購入すること
トーマス・マン『ドイツとドイツ人』(岩波文庫) * 抜粋してコピー、配布します

参考文献

ハインリヒ・ハイネ『ドイツ古典哲学の本質』(岩波文庫)

その他

授業中に適宜紹介します。

* 下記の2冊を読むことを勧めます

阿部謹也『物語ドイツの歴史-ドイツ的とは何か』(中公新書)

山之内克子『物語オーストリアの歴史-中欧「いにしえの大国」の千年』(中公新書)

オフィスアワー

その他特記事項

(ソフトウェア利用)
特になし

参考URL

備考

科目名: ドイツ思想(2) / ドイツ思想史(2)

担当教員: 高次 裕

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C512

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: gakubadmin 更新日時: 2026-01-19 11:17:5

授業形式

対面

履修条件・関連科目等

ドイツ語を履修している必要はありません。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

トーマス・マンを道案内役にドイツ思想およびその背景であるドイツ文化について論じます。具体的にはマンの講演「ドイツとドイツ人」および「ワーグナーの苦悩と偉大」において言及されている人物、著作、作品を中心に論じます。

科目目的

この科目は文学部ドイツ語文学文化専攻の「専攻科目群」の中の選択科目のひとつです。専門的学識を身に付け、その学識と幅広い教養を併せ持つことにより多様な社会に柔軟に対応することができる複眼的思考を鍛え、主体的に学び続けることができる主体性を養うことを目的としています。

到達目標

- ・ドイツ語圏の代表的な思想を理解し、説明することができる
- ・ドイツ語圏の思想の背景文化を理解し、説明することができる

授業計画と内容

春学期

- 第1回 導入:世界をどう見るか? 学問について-我々の学びはどこにあるのか?
- 第2回 歴史とは? ヘーゲル『歴史哲学講義』
- 第3回 トーマス・マン「ドイツとドイツ人」
- 第4回 キリスト教と旧約/新約聖書
- 第5回 ルター:宗教改革、ドイツ語訳聖書
- 第6回 バッハの受難曲(『ヨハネ受難曲』前半)
- 第7回 バッハの受難曲(『ヨハネ受難曲』後半)
- 第8回 ゲーテ『ファウスト』
- 第9回 ゲーテとベートーヴェン
- 第10回 シラーとベートーヴェン
- 第11回 カント『純粹理性批判』
- 第12回 カント 補足とそのほか
- 第13回 ヘーゲル『精神現象学』
- 第14回 ヘーゲル 補足とそのほか

秋学期

- 第1回 トーマス・マン「ワーグナーの苦悩と偉大」
- 第2回 ドイツ・ロマン派、無限への憧憬:シュレーゲルとノヴァーリス
- 第3回 ワーグナー『さまよえるオランダ人』
- 第4回 ワーグナー『タンホイザー』
- 第5回 ワーグナー『ローエングリン』
- 第6回 ワーグナー『トリスタンとイゾルデ』
- 第7回 ワーグナー『ニュルンベルクのマイスタージンガー』
- 第8回 ワーグナー『ニーベルングの指輪』(『ラインの黄金』『ワルキューレ』)
- 第9回 ワーグナー『ニーベルングの指輪』(『ジークフリート』『神々の黄昏』)
- 第10回 ワーグナー『パルジファル』
- 第11回 ショーペンハウアー『意志と表象としての世界』
- 第12回 ニーチェの思想
- 第13回 ハイデガー(『言葉についての対話:日本人と問う人とのあいだの』)
- 第14回 補足と振り返り

(状況を見て順番・内容を変更することがあります)

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	30%	期末に提出するレポートの内容 →作品をしっかり読んでいるか? 内容は正確か? 自分の考えをわかりやすく述べているか? 着眼点が優れているか? 説得力があるか? 体裁は適切か?
平常点	70%	毎回の授業後に提出する学習レポートの内容 →授業内容を正しく理解しているか? (ただの書き写しではなく)内容を正確にまとめているか? 自分の関心・考えをわかりやすく述べているか? 着眼点が優れているか? 考えの根拠・理由・補足を適切に述べているか?
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- 以下に該当する履修者には単位を認めない
- ・期末レポート未提出の場合
 - ・虚偽の申告、記述をした場合(生成AI任せのレポートを提出した場合を含む)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

responの使用による双方向型の授業運営を部分的に取り入れる

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

教科書

トーマス・マン『ワーグナーの苦悩と偉大』(岩波文庫) * 全員が購入すること
トーマス・マン『ドイツとドイツ人』(岩波文庫) * 抜粋してコピー、配布します

参考文献

ハインリヒ・ハイネ『ドイツ古典哲学の本質』(岩波文庫)

その他

授業中に適宜紹介します。

* 下記の2冊を読むことを勧めます

阿部謹也『物語ドイツの歴史-ドイツ的とは何か』(中公新書)

山之内克子『物語オーストリアの歴史-中欧「いにしえの大国」の千年』(中公新書)

オフィスアワー

その他特記事項

(ソフトウェア利用)
特になし

参考URL

備考

科目名: ドイツ文化講義(1)(3) / ドイツ文化講義(1)(3)(5)

担当教員: 石見 舟

履修年度: 2026 学期: 前期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C513, LE-DT1-C5

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:3

更新者: AA2535

更新日時: 2026-01-12 18:58:2

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います(予定)。

履修条件・関連科目等

前期「舞台芸術論」の聴講と、続けて後期「ドイツ文化講義」の履修をおすすめします。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

タイトル: 演劇人ベルトルト・ブレヒト(1)

■本講義は今年で没後70年となるドイツの演劇人ベルトルト・ブレヒト(1898-1956)の創作の道のりを、戯曲作品を中心に概観し、考察します。

前期は、ブレヒトのキャリアが始まった1920年代から30年代前半について論じます。第一次世界大戦敗戦後、ドイツでは都市文化が花開きます。ブレヒトは、猥雑でエネルギッシュな時代を反映し、そしてそれをリードしようと、戯曲・上演・映画・ラジオ等でさまざまな実験的創作をしました。そしてそれらは、単純に美的な試みではなく、思想的・政治的試みでもあったのです。

彼の創作の道のりを考察するために、実際のテキストだけではなく、ドイツ語圏演劇学の知見や、ブレヒト存命中から最新の上演例も参照します。いままで演劇を見たことがない方も、あるいは演劇が嫌いという方も是非お越しください。(講義中で扱うドイツ語については、必ず日本語での解説が付きます。)

■授業の受け方および評価について:

各回の目次と参考文献等をmanaba経由で配布します。

個々のトピックについて口頭で講義していきます。ですので、受講生の皆さまには、耳で聞いた情報をノートにまとめる作業を行ってまいります(紙、電子を問わない)。

聞き漏らしてしまったこと、理解できなかったことについては授業の最後に提出するリアクションペーパーに書いていただきます。次の授業の冒頭でフィードバックを行います。

第14回で、内容についての確認を行います。具体的には言葉の選択と簡潔な文章を書いていただきます(これについては授業内でアナウンスします。)

科目目的

- ・舞台芸術に関する基礎知識を修得する。
- ・ドイツ語圏演劇学の概要を修得する。
- ・言語・文化の異なる演劇作品の比較分析について理解を深める。

到達目標

- ・舞台芸術に関する基礎知識を、他人に簡潔に説明することができる。
- ・ドイツ語圏演劇学の概要を、他人に簡潔に説明することができる。
- ・言語・文化の異なる演劇作品の比較分析について独自の視点から理解を深め、自身の言葉で論述することができる。

授業計画と内容

第1回授業案内

第2回ブレヒトの生きた時代—表現主義、アヴァンギャルド、黄金の20年代、カール・ヴァレンティン、戯曲《パール》(1)

第3回戯曲《パール》(2)カストルフ演出、戯曲《夜うつ太鼓》—共産主義革命

第4回詩『家庭用説教集』、戯曲《都会のジャングル》

第5回戯曲《三文オペラ》(1)—新しい演劇の形式(叙事詩的演劇、異化効果、身振り、作者性)

第6回戯曲《三文オペラ》(2)映画、ウィルソン演出

第7回戯曲《三文オペラ》(3)ウィルソン演出

第8回戯曲《マハゴニー市の興亡》フォン・ツァ・ミュールン演出

第9回教育劇の試み(1)—ベンヤミン、中断、アジア古典劇、町の演劇

第10回教育劇の試み(2)—カストルフ&ステュアート《教育劇》、シー・シー・ポップ《オラトリオ》

第11回戯曲断片《ファッツァー》(1)、断片と革命

第12回戯曲断片《ファッツァー》(2)、地点版

第13回戯曲《屠場の聖ヨハンナ》、バウムガルテン演出

第14回総括・まとめ:理解の確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 設問に対応した解答の達成度。
レポート	0%
平常点	30% 授業へ取り組む姿勢を、各回毎に集計するショートレポートの記述内容の充実度等から評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- ・都度、資料等はmanabaで通知・配布します。

【参考文献(一部)】

- ・ベルトルト・ブレヒト、岩淵達治訳『ブレヒト戯曲全集』全9巻、未来社、1998-2001年。
- ・ベルトルト・ブレヒト、津崎正行訳『ファッツァー』『舞台芸術』18号所収、角川学芸出版、2014年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: ドイツ文化講義(2)(4) / ドイツ文化講義(2)(4)(6)

担当教員: 石見 舟

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 月4

配当年次: 1~3年次配当

科目ナンバー: LE-DT1-C514, LE-DT1-C5

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:4

更新者: AA2535

更新日時: 2026-01-12 19:05:0

授業形式

すべての授業回について、面接授業を行います(予定)。

履修条件・関連科目等

前期「ドイツ文化講義」および「舞台芸術論」の受講をおすすめします。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

タイトル: 演劇人ベルトルト・ブレヒト(2)

■本講義は今年で没後70年となるドイツの演劇人ベルトルト・ブレヒト(1898-1956)の創作の道のりを、戯曲作品を中心に概観し、考察します。

後期は、1933年、ナチ党の台頭に端を発するブレヒトの亡命から、東ベルリンへの帰還、そして没後について論じます。非ドイツ語圏でのおよそ15年にも及ぶ亡命生活は、母語で語りかける観客の喪失を意味していました。そうして創作は、内容面でも形式面でも変化していき、今もなお演じられる代表作が多く生まれました。

彼の創作の道のりを考察するために、実際のテキストだけではなく、ドイツ語圏演劇学の知見や、ブレヒト存命中から最新の上演例も参照します。いままで演劇を見たことがない方も、あるいは演劇が嫌いという方も是非お越してください。(講義中で扱うドイツ語については、必ず日本語での解説が付きます。)

■授業の受け方および評価について:

各回の目次と参考文献等をmanaba経由で配布します。

個々のトピックについて口頭で講義していきます。ですので、受講生の皆さまには、耳で聞いた情報をノートにまとめる作業を行っていただきます(紙、電子を問わない)。

聞き漏らしてしまったこと、理解できなかったことについては授業の最後に提出するリアクションペーパーに書いていただけます。次の授業の冒頭でフィードバックを行います。

第14回で、内容についての確認を行います。具体的には言葉の選択と簡潔な文章を書いていただけます(これについては授業内でアナウンスします。)

科目目的

- ・舞台芸術に関する基礎知識を修得する。
- ・ドイツ語圏演劇学の概要を修得する。
- ・言語・文化の異なる演劇作品の比較分析について理解を深める。

到達目標

- ・舞台芸術に関する基礎知識を、他人に簡潔に説明することができる。
- ・ドイツ語圏演劇学の概要を、他人に簡潔に説明することができる。
- ・言語・文化の異なる演劇作品の比較分析について独自の視点から理解を深め、自身の言葉で論述することができる。

授業計画と内容

第1回授業案内

第2回ナチスの台頭と亡命、《コイナーさんばなし》、戯曲《まる頭ととんがり頭》

第3回戯曲《ブンティラとマッティ》、シュレーフ演出

第4回戯曲《肝っ玉おっ母とその子どもたち》(1)、ブレヒト&ヴァイゲル

第5回戯曲《肝っ玉おっ母とその子どもたち》(2)、ボレシュ《キル・ユア・ダーリン》

第6回戯曲《セチュアンの善人》

第7回戯曲《ガリレイの生涯》(1) — 「演劇の小思考原理」、アルチュセール

第8回戯曲《ガリレイの生涯》(2)、カストルフ演出

第9回写真詩《戦争案内》

第10回短編集《曆物語》、《メティ》

第11回戯曲《アルトゥロ・ウイの興隆》(1)

第12回戯曲《アルトゥロ・ウイの興隆》(2)、ミュラー演出

第13回《アンティゴネー》翻案、ストロープ & ユイレ監督映画

第14回総括・まとめ: 理解の確認

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	70% 設問に対応した解答の達成度
レポート	0%
平常点	30% 授業へ取り組む姿勢を、各回毎に集計するショートレポートの記述内容の充実度から評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クlickカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- ・都度、資料等はmanabaで通知・配布します。

【参考文献(一部)】

- ・ベルトルト・ブレヒト、岩淵達治訳『ブレヒト戯曲全集』全9巻、未来社、1998-2001年。
- ・ベルトルト・ブレヒト、津崎正行訳『ファッツァー』『舞台芸術』18号所収、角川学芸出版、2014年。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

科目名: ドイツ語学 I (2)(4):演習

担当教員: 成田 節

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 水1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C853,LE-LG2-C8

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:4

更新者: AB4349

更新日時: 2026-01-09 08:17:3

授業形式**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

ドイツ語と日本語の小説とその翻訳も使い、表現の仕方を比べることを通じて、独日両言語の文法・語法の共通点と相違点を具体的に考察する。

科目目的

言語学的な観点からドイツ語のしくみについての理解を深め、また普段無意識に使っている日本語についても認識を深める。

到達目標

科目目的を参照

授業計画と内容

1. 導入
2. ドイツ語と日本語の代名詞
3. 動詞の結合価
4. ドイツ語と日本語の構文
5. ドイツ語の対格目的語と日本語のヲ格目的語
6. ドイツ語と日本語の受動文の構造
7. ドイツ語と日本語の受動文の働き
8. 恩恵・迷惑の表現
9. ドイツ語と日本語の時制概観
10. ドイツ語と日本語の時制の用法の違い
11. 語り手の立場と体験話法
12. 言語表現における「視点」
13. ドイツ語と日本語の表現における「視点」
14. 総まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

概要(2)(4)参照。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 総まとめの回に行うテストによって講義の理解度を評価する。
レポート	0%
平常点	40% 毎回授業の後に提出するコメントシートの記述内容によって授業への取組み方を評価する。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

※欠席が開講回数の1/3を超えた者は成績評価の対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリックカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

別途指示する

オフィスアワー

その他特記事項

・本授業に加えて、「ドイツ語学II(2)(4):演習」も合わせて受講することが望ましい。

参考URL

備考

科目名: ドイツ語学Ⅱ(2)(4):演習

担当教員: 林 明子

履修年度: 2026 学期: 後期

開講曜日時限: 水3

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-C855,LE-LG2-C8

登録者: admin

登録日時: 2025-10-02 06:53:4

更新者: AA0530

更新日時: 2026-01-12 13:28:4

授業形式**履修条件・関連科目等**

- (1)「独文基礎演習」「ドイツ語学I(1)(3):講義」「ドイツ語学I(2)(4):演習」もしくは国語学、英語学を含む言語学分野の授業を履修済みで、言語学の基礎を十分身につけた学生は、後期のみ履修でも差し支えないが、本授業は、基本的に前期開設の「ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義」が履修済みであることを前提としている。
- (2) 本授業に加えて「ドイツ語学I(2)(4):演習」も合わせて受講することが望ましい。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ✓ ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

言語学の魅力の一つとして、言語事実の観察・分析を通して、背景にある社会や文化に客観的に迫ることがあげられる。そのためには、専門用語や方法論を整理し、具体的な言語資料を分析して、その結果を意味づけるプロセスを体験することが有効である。授業では、実証的な先行研究の講読を通して、調査対象となる問題の発見、データ収集、データの分析方法を学ぶ。今年度前期開設の「ドイツ語学Ⅱ(1)(3):講義」では語用論の基礎的な内容を扱ったが、後期では、より幅広くドイツの社会・歴史・メディアとの関連の中でドイツ語の資料を観察・分析したさまざまな論文を取り上げる。報告を担当する論文を決め、その内容を発表・議論する。口頭発表を経て、学期末にミニ論文の形にまとめたレポートを提出する。

科目目的

具体的な言語資料の分析結果に基づいて、言語の構造や機能について考察する能力を養うことを目的とする。将来、どの分野で卒業論文や卒業研究を執筆することになっても、言語事実を観察・分析することによって、背景にある社会や文化に客観的に迫れる力を身に付けることを目指している。

到達目標

実証的な先行研究に倣いながら、ドイツ語で書かれたデータを実際に分析することを体験し、生データを分析できる方法論を身に付ける。具体的な言語資料の分析結果を学問史の中に位置付けながら、言語運用や背景社会について考察・議論できるようになる。

授業計画と内容

- * 担当を決めて、グループで報告する。
- * 報告を担当する論文は難解だが、内容は興味深いので意欲を持って取り組んでほしい。
- * 取り上げる文献については、履修者数の決定を見て最終的に判断する。それにより、以下に予定するテーマおよび暫定的な順番は、大きく変わり得る。

- (1) オリエンテーション: テキストと取り上げる論文について
- (2) ナチズム(国民社会主義)とメディア(報告)
- (3) ナチズム(国民社会主義)とメディア(ディスカッション)
- (4) 政治的言説にみるナチ語彙の再使用(報告)
- (5) 政治的言説にみるナチ語彙の再使用(ディスカッション)
- (6) ドイツにおける「フクシマ」報道(報告)
- (7) ドイツにおける「フクシマ」報道(ディスカッション)
- (8) トルコ系移民のドイツ語(報告)
- (9) トルコ系移民のドイツ語(ディスカッション)
- (10) 難民・移民を排除する談話と対抗する談話(報告)
- (11) 難民・移民を排除する談話と対抗する談話(ディスカッション)
- (12) ヘイトスピーチの批判的談話分析(報告)
- (13) ヘイトスピーチの批判的談話分析(ディスカッション)
- (14) 総括: 期末レポート(ミニ論文)の執筆に向けて

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと、授業終了後の課題提出、その他

- * 授業中の発表には、必ずハンドアウト等の配布資料を用意すること。
- * 発表に先立ち、ハンドアウトのたたき台を用意して事前に相談すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	当該分野の基本的な概念や方法論を十分理解し、論文形式の文章の中で正確に用いることができるか、また基本的な概念や方法論を用いて、実際にデータを分析できるようになったかを評価の対象とする。正確な引用と出典表記も重視する。
平常点	40%	発表準備および発表を通じた課題への取り組み、授業への貢献度を評価する。ハンドアウト作成にあたって、正確な引用と出典表記には十分注意を払うこと。リアクションペーパーなどを通じた授業内の「気づき」も重視する。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

- * 原則として、出席率が70%に満たない者、課題未提出の者はE判定となるので注意すること。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

- * 課題等に対する授業中のコメント内容は、期末レポートやその後の学びに反映させてほしい。

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaを用いて、学生の反応や「気づき」を把握し、クラスで共有しながら授業を進める。

実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

<テキスト>
高田博行・山下仁編(2019)『断絶のコミュニケーション』ひつじ書房

<専門用語を中心に予・復習の役に立つ辞典／事典類>

亀井孝他編著(1996)『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂

斎藤純男・田口善久・西村義樹編(2015)『明解言語学辞典』三省堂

ドイツ言語学辞典編集委員会編(編集主幹: 川島淳夫)(1994)『ドイツ言語学辞典』紀伊國屋書店

Bußmann H. (Hrsg.) (2008) Lexikon der Sprachwissenschaft. Stuttgart: Alfred Kröner Verlag.

Lewandowski, Th. (Hrsg.) (1990) Linguistisches Wörterbuch. 5., überarbeitete Aufl. Heidelberg, Wiesbaden: Quelle & Meyer

*その他の参考文献は、テーマに応じて授業中に紹介する。

オフィスアワー

その他特記事項

- (1) 発表に先立ち、ハンドアウトのたたき台を用意して事前に相談すること。
- (2) 演習の授業は学生が主体となって作り上げるものなので、他の学生に迷惑をかけないように、十分な準備をして臨んでほしい。また、発表当日に欠席・遅刻することのないよう、健康管理も怠らないようにすること。
- (3) 自分の担当箇所だけでなく、毎回扱われる文献を必ず読んでから授業に出席すること。

参考URL

備考
